

公園の風景

= 新年に観察展望棟も化粧直し =

観察展望棟が年明けにちょっぴり化粧直しをしました。公園オープン以来15年、公園で一番早く太陽を迎え、一番遅くに太陽を送る場であり、登って観るとその名のとおり360度のパノラマが広がって、春夏秋（冬はちょっと敬遠したいかな）の趣が楽しめる場所でもあります。化粧直しは1月5日から約1週間、足場を組んで行われました。外側の壁を塗り直した後、内側にシロアリとクイムシの駆除剤を施したとのことです。

まだ塗料のにおいが残っている観察展望棟で新年の展望にも思いを馳せてみませんか。



化粧直し中の観察展望棟

= 冬鳥集合 =

淡水池にミコアイサの雄2羽と雌14羽が淡水池に集合しています。雄は美しい繁殖羽に変身しており、パンダガモと呼ばれるとおり、目の周りの黒い模様が白い体と相まってとても目立っています。ミコアイサは3月くらいまで観察できるとのことです。ほかにもホシハジロ、オナガガモ、マガモなど、その時々によって色々な種の鳥が見られます。樹林帯にはメジロが飛び交い、観察ホールの近くではアオジの雄と雌が地面でエサをついばんでいます。

= 新春バードウォッチング =



1月の第2日曜日、今年最初のバードウォッチング入門がありました。今回のテーマは「猛禽類を観察しよう」ということで、参加者は上空を見上げながら観察展望棟まで歩きました。風は冷たかったものの青空が広がり、旋回するミサゴの腹部と翼の下面の白さが冬の太陽の下はっきりと見えました。遠い上空を2羽のトリが平行線を描いて上昇しています。何のトリかと双眼鏡で一生懸命追いかけると、2機の訓練用飛行機であることが判明しました。その意外性が面白くみんなで笑いました。オオバンのもつみられる羽が散乱していた場面では、生態系の関係を理解しつつも複雑な表情の参加者たちの顔が印象的でした。因みにこの日は葦の会会員も来園者とともに初歩きを楽しみました。